

経営が苦しい時も工夫を
竹原信夫・「日本一明るい経済新聞」編集長
私は関西の元気な中小企業を取材しているが、新型コロナウイルスの感染拡大で経済環境が厳しくなる中、(コロナ対策で評価をされた)吉村洋文大阪府知事の人気に注目し、吉村氏の顔をあしらったクリアファイルやマグカップを商品化して業績を上げた企業がある。経営が苦しい時でも明るく振る舞い、アイデアや工夫を凝らして乗り越えようとする意思の強さが経営者には求められる。

万博で若者の価値観発信

川竹絢子・2019年度「WAKAZO」執行代表(京都大学付属病院研修医)
2025年の「大阪・関西万博」に向け、大学生らを中心とするグループ「WAKAZO」はその誘致や機運の盛り上げに取り組んでいた。万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」について議論し、さまざまな課題の解決方法を模索してきたが、万博ではハビリオンをつくり、世界に向けて若者の価値観を発信していかたい。

「ふるさと納税」で歳入増へ

中山泰・京丹後市長
近年は市民の価値観が多様化しているが、当市では「市民総幸福」に向けたまちづくり条例を平成27年に施行し市政に取り組んできた。例えば、路線バスは赤字続きで経営的には破綻状態であったが、高齢者の足として不可欠であるため、運賃を下げて乗客を増やすよう努め



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

国際学部寄付講座「関西の文化・政策・経済」

た結果、運賃収入は3割増えた。今後は、財政難を乗り越え、「ふるさと納税」を活用して歳入増と返礼品を通じた地場産業の振興につなげていきたい。

デザイン活用でブランド化

米村猛・近畿経済産業局長
関西のGDPはトルコ一国に次ぐ程度で、近年相対的な地位は下がっているが、近畿経産局は関西の魅力発信に向け、イノベーション(技術革新)や地域ブランドの向上を支援している。その中では産学連携も重要な取り組みで、例えば関西学院大学と兵庫県三木市が手を組み日本酒を盛り上げる活動はユニークだ。2025年「大阪・関西万博」のシンボルマークも決まったが、こうしたデザインを活用したブランド化も効果的だ。

視聴者との間で信頼築く

奈良井正巳・ABCリラ東京支社長
ABCリラは朝日放送(ABC)テレビ系列の番組制作会社だが、もともと私はABCテレビの人気番組「探偵!ナイトスクープ」でチーフプロデューサーを務めた。ナイトスクープは視聴者が参加する泣き笑いのバラエティー番組で、「亡き父の匂い」を表現してほしい」という依頼に基づく感動編も生み出している。高視聴率は、人をおどしめないという番組制作のルールが視聴者との間で信頼を築いた成果だといえる。

2年度の講義から

(講師の役職は講義時のもの)



関西に根付く文化をはじめ経済、経営、産業政策などについて識者らがオムニバス方式で講義する寄付講座「関西の文化・政策・経済」が、関西学院大学国際学部(兵庫県西宮市)で令和2年度秋学期(令和2年9月



～3年1月)に開講された。新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、授業はパソコンやスマートフォンを通じて学ぶオンラインで実施されたが、約350人が受講し関心の高さを伺わせた。



豊臣淳さん/タレント 映画評論家
私はグルメ杵屋の子会社であった回転すしチェーン、元氣寿司の社長を務めたが、そもそも回転すしは昭和33年に東大阪市で生まれた画期的なビジネスであった。私は廃し大手チバネルで顧客の注文を受けて1分で商品を届ける。“回転しない回転すし”を企画し、主婦層をターゲットに女性回転すしを豪華にして、また駐車スペースを広げるなど店舗は従来比で1.5倍になった。この結果、顧客は従来比で「当たり前」と思われていたことを疑問を持つことから、モノが生まれる。

「当たり前に疑問で技術革新

が、映画づくりは「人情と笑い」の町

が、映画づくりは「人情と笑い」の町</